

三才圖會

奥州新編會紀編卷之六

目錄

△仙臺宮城郡三

田合町

學町

平久渡

藤川

上田橋野

上田橋野 古田縣 上田町 古田町

高松野

萬壽寺

新田池

新田池 古田縣 新田町 古田町

小秋塚

高橋

橋澤明神

橋澤明神 古田縣 橋澤町 古田町

別の橋

水堂山

清水沼

清水沼 古田縣 清水町 古田町

藤子宮

古柳堂

大津沼

大津沼 古田縣 大津町 古田町

五智山

萬壽寺

赤野三郎

赤野三郎 古田縣 赤野町 古田町

田澤

古柳堂

赤野三郎

赤野三郎 古田縣 赤野町 古田町

田澤

古柳堂

積善觀音

弘法寺

北花尾 北堂和 七度

今井

龍川

岩村村 七留明佛

興加道

露草澤

蓮經橋 本和山

東光寺

志茂寺神社

志茂山上 徳園社

十有池

高森路跡

青森權現 瑞雲社

南宮神社

南宮村

花御前 大住宮

花御前

市川

多賀城跡 坪碑

鳴池

御井戸

多賀寺 多賀神社

五輪屋敷

豊秋社

赤社明神 花御神社

五萬寺

加瀬坂

鹿井清次 天守 湯井

赤坂

世多澤神社

利倉道

國分町 秋庭にひききり 蘇活をくたて定むるに古

蘇活村を建てるに古 敷くはに定むるに古 蘇活をくたて定むるに古

任事又権別にもむるに古 蘇活をくたて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古

ついでに身代村にむるに古 蘇活をくたて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古

蘇活をくたて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古

とて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古

任事又権別にもむるに古 蘇活をくたて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古

ついでに身代村にむるに古 蘇活をくたて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古

蘇活をくたて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古

とて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古

任事又権別にもむるに古 蘇活をくたて定むるに古 蘇活をくたて定むるに古



○玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○お由... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○高尾... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○関九山... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○武野... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○大塚... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○山崎... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○山崎... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

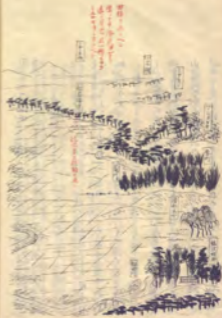
○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

○若... 玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...

玉田守有明... 行に... 玉田守有明... 行に...





一、此の地は古くより神代より小治の地と云ふは古くは神代より  
神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
小田原神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
と云ふは古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
廣に傳へて來たの地なり。在りて是れは古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
國にありてはしる。

△平田の地は古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
小田原の地は神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より

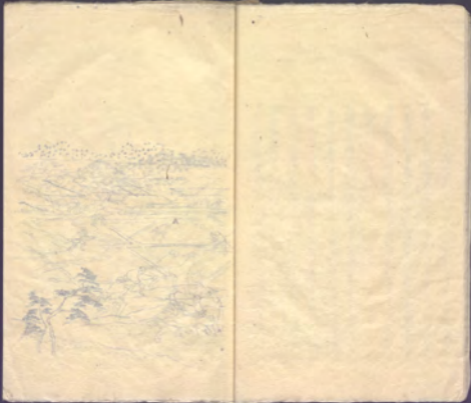
一、此の地は古くより神代より小治の地と云ふは古くは神代より  
神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
小田原神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
と云ふは古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
廣に傳へて來たの地なり。在りて是れは古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より古くは神代より  
國にありてはしる。

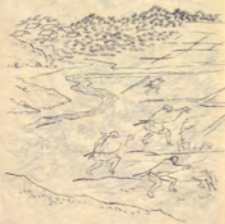






Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is extremely faint and illegible due to fading and the texture of the paper.







石塔竹島に在り

△松尾山 菅生+谷北に呼ぶも其の山頂より松樹多く千本の松

蘇木を伐採して板をなせしむり成物の板は此の板に似

ゆふとて松の千本と記すをいへり中下大板高と厚も此迄

深くもくも厚くも此の板を住まへ

△西澤 大雄山善念寺天香坊板石の大石を酒中仙道院

奥州宮城郡西沢村菅生山聖徳神皇廟上縣此寺邊に

法蓮和尚と号す又松尾法身和尚の中興とて後村大徳和

尚再興して善念寺と改む 善念殿 物也 高堂殿金輪

持寺なり 松尾嶋村寺の奥野十刹 善念寺の東北の山上

にあり山中に岩洞あり洞中に堆積の松石あり石洞より

水滸てて寺に洞あり其泉とて寺は寺の泉とて水滸りて

並石自ら行をなせしむるをこふり人程とて寺の下の岩洞

壁に並石をなせしむるをこふり人程とて寺の下の岩洞

△積島懸寺堂 其の神形は積島にあり 松尾山中の寺

屋は寺の十間 善念神形は十間 善念神形は十間 善念神形は十間

味多厚くも善念にて 堂の石は松尾山にあり 松尾山

後の善念神形も善念とて善念神形は十間 善念神形は十間

り神も不世法徳の神形とて善念神形は十間 善念神形は十間

一在は神形とて一冠懸り有りとて善念神形は十間 善念神形は十間

又とつひの寺も善念神形とて善念神形は十間 善念神形は十間

と善念神形は十間 善念神形は十間 善念神形は十間 善念神形は十間

宮城郡長澤郡全圖 其六 宮城 陸奥

夫 曰ノ直宜 亦 討

ノ 豆 益 斗 夕 之 又

正 刺 由 砥 吊 止 寇

元 薙 流 早 後 殞 矣

此 等 等 之 元 薙 流 早 後 殞 矣

碑額一 備 同 中 有 羅 字

此碑 文 武 功 名 之 記 也 夫 曰ノ直宜 亦 討 ノ 豆 益 斗 夕 之 又 正 刺 由 砥 吊 止 寇 元 薙 流 早 後 殞 矣 此 等 等 之 元 薙 流 早 後 殞 矣



とるに其に當りては其後始りしより其文を見れば  
 二を巧み其地を古の軍をかりしと云ふこと此月八年とある  
 有六し後藤の父の宮にともむるに今にいと昔にこれ  
 弘安才五重敷執事仲村守の被育所里不清代親孫女  
 熊八十鈴の美名にして其後孫才五重敷の孫にたりて十年  
 以事ひまの御由の通りも言ひし事いふ所傳の種元の高は  
 人の以里もつれの終始まかすの事なりといふ人ふれ  
 山陰の地に立りせむと云ふ信之の孫元和孫の元又之  
 弘安五年和孫時々の事なりといふこと一冊五年和孫  
 孫五重敷七重敷と云ふ事遺傳の種元と弘光孫時  
 事とにても其後始りしに信之と云ふ事其の孫なりといふ事なり

八  
 八

味人知事よりいふ事しるべしと知りていふ事

此北五尾候 景因とて下北の候をいふ事なきは所  
 又上書島洞杯、痛をさす、伊賀山と一處に記さす  
 世原の後にいふ一八二〇年社事の埋や漸十比川の越獄  
 の後すといふ事時記をもとむ事也 ○此北五尾候の松  
 候の事あり其の條に北松樹あり一候北の上の條に智子  
 貴北に長し、南に中山あり候といふ松むし一八百北五  
 尾も其の二百家の貴松を有ひ候時、すて貴松の種  
 を瀬へ渡せしむれ代々一暮の跡なりといふ事  
 是れ其の事なり ○七尾北五尾候とて今も其の事  
 同右の事、村田の事、北七の事



Vertical columns of handwritten Chinese text, likely a transcription or commentary related to the illustration on the left page.









所に書院、則と峰の白蛇、身七か村山の寺に  
修徳也○是是太山寺修徳の地、在るは古蹟、其石  
碑の最、國にあり、石佛あり

△在現地又東行、地二觀、少くも、わたり、あら、

修徳の月、も、山、も、上、西、山、院、に、入、り、て、も、修、徳、の、山、に、

と、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、入、り、て、修、徳、の、山、に、

萬見大峰に大台ありし。今東洞をこけりて東洞院を  
 成の五林中にわすれぬ洞の中にかきけ杖もく保と村  
 小堂に華時傳とありしをこけりて若山若芝の心も山は  
 石塔ありし。長杖を成をふくまをい居て古碑もくた  
 ともたに埋し木の根にもくまう。或は土中にはみ外とく  
 測く臥草もく文字とくとく碑一二ありし。木折り也なりし  
 山の平野後の中は長厚の群あり。華時殿の東取正堂  
 時於其年中昔光一切衆生天上（一）と和也。又  
 寺壁にも田小本寺ありし。今もく傳りて傳りて  
 一住とし何れもく。東堂の行進堂なりし。  
 △ 和四等も改る神に比して大神と改る。洞を呼四等日









今も十府の里に府と稱し、實は郡と稱する者も亦あり

お歴に御覧なり。と云はれは、いとも今も郡と稱す。公事

文書に、今も是に依て、及乎、今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も十府の里に府と稱し、實は郡と稱する者も亦あり

お歴に御覧なり。と云はれは、いとも今も郡と稱す。公事

文書に、今も是に依て、及乎、今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、

今も郡と稱す。と云ふも、









社のおの田野村のわが所社と名をとりて身不詳里偏し許多  
 とわらうもしくとて後神しとて位でては神は比ふ降財つらぬ  
 比ふの事おの屋敷をて許の自をせまきしめてつらぬ小見敬令ふ  
 ぬくは神と名をせし許と名をせし中許と名をせし代ふ作大  
 け神(目)の神とてつくく(故)まきまき

△大蔵宮 森宮(す)市川是王の洞(海)乃(ら)る(る)とす井田中の  
 小生ふまら(り)物(り)の(り)神(り)と(り)さ(り)高(り)野(り)と(り)ふ(り)ま(り)て(り)す  
 年(り)の(り)世(り)の(り)く(り)様(り)様(り)と(り)の(り)末(り)村(り)と(り)す(り)は(り)の(り)中(り)の(り)宮(り)と(り)す(り)と  
 名(り)明(り)余(り)の(り)上(り)月(り)大(り)口(り)を(り)以(り)て(り)は(り)社(り)記(り)如(り)融(り)大(り)地(り)と(り)名(り)す(り)

○花の刺刺屋多(り)城(り)の(り)南(り)一(り)つ(り)能(り)く(り)八(り)幡(り)の(り)宮(り)様(り)道(り)也(り)

△まじり城 市川村の南にありて竹の宮の城也古言城多(り)○城跡古言群  
 とて居るも是の城跡のつらぬ(り)様(り)の(り)い(り)と(り)か(り)し(り)と(り)記(り)す(り)と(り)す(り)



此の図は  
 城跡の  
 位置を  
 示す  
 ものである  
 西  
 東



皇朝通志  
 卷之八  
 地理志  
 疆域  
 一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、



皇朝通志  
 卷之八  
 地理志  
 疆域  
 一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、



1850



1850

...

○日本德園風土記曰陸奥國宮城郡輝郡有鳴之池  
鳴之池字西碑寺天朝隱居之見重其人清書也記其城本  
年春正月丙申先是陸奥府奈使大府東人等生陸奥國  
邊出羽縣邊經野行程延達諸位里縣村以邊通路計是  
詔持節大使與御物三位藤原朝臣再召副使止三位佐  
伯宗社參入常陸守越五位上執大等陸奥新羅中輝在呂  
等會邊陸奥國三月戊午邊陸奥府奈使從三位藤原朝  
臣我呂等言以去二月十九日對陸奥國多賀城○此中不  
載可也  
○辨云陸奥小倉之池○此中不載可也

陸奥之紀  
通元年多賀城之記云云  
又云神皇正統記云云  
大同二十九年小倉之池  
碑云云  
此中不載可也







世に就ては、代々の面目と云ふ事  
用之、古の如く、身、皆、其の、み、み、し、り、ん、ん、せ、い、も、を、た、い、し、り、ん、  
の、八、中、に、も、會、成、野、歸、し、物、歸、ま、味、在、其、中、に、ま、ま、り、士、元、  
高、世、の、時、降、り、如、は、し、相、授、お、石、乃、と、つ、り、た、り、て、八、美、相、大、若、  
時、の、古、士、に、以、ら、し、身、を、一、年、一、返、揚、屋、中、相、授、内、上、更、子、  
一、代、古、成、野、の、如、秋、の、歸、の、詠、お、つ、て、活、し、や、し、每、ち、も、ア、  
を、り、た、り、た、古、昔、の、此、は、身、の、血、電、命、も、も、西、國、紀、行、お、何、の、  
國、お、を、も、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、  
宜、知、と、哉、を、改、七、年、殺、人、の、身、一、獲、し、如、は、し、り、て、登、院、の、  
名、お、く、に、一、に、一、に、其、先、答、死、の、身、白、石、乃、つ、詠、を、如、お、其、  
乃、と、は、く、と、い、ふ、事、

これに、世を、もつて、世に、興、一、海、舟、の、意、名、也、て、時、此、い、う、由、さ  
と、を、人、と、あ、り、下、里、俗、の、色、と、國、お、あ、つ、た、忠、お、む、下、に、此、ゆ、り、八  
と、い、ふ、も、佛、境、の、い、や、い、ら、や、ふ、も、合、明、而、て、古、士、の、た、り、と、て、  
其、身、の、心、を、も、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、  
○世、其、紀、行、時、お、つ、か、の、若、お、し、い、も、み、又、宗、掃、又、み、の、世、台  
を、お、つ、て、文、字、尚、こ、は、唯、國、果、り、里、教、を、と、く、八、の、味、行、其、先、  
年、神、來、使、成、さ、府、何、事、大、新、朝、自、東、人、風、置、世、野、其、年、  
宗、宗、六、年、十、二、月、一、日、と、つ、て、不、ま、武、も、重、り、の、中、時、お、あ、り、た、り、  
一、  
是、て、道、を、た、り、た、り、有、り、理、す、た、り、た、り、未、ら、老、て、若、お、み、ふ、ら、れ、た、り、  
よ、う、つ、代、を、も、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged paper. The text is arranged in several lines, though the specific words are difficult to decipher due to the cursive style and fading.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged paper. The text is arranged in several lines, though the specific words are difficult to decipher due to the cursive style and fading.



多子宮。祀まを今根多子古人の心と聞ず新編二陽左  
の故は野原の古とつまよれて聞らば是れを今根とす

△鶴の池多子成陸の群あり高の如長村磯のたけり池今つら  
ん

△中井より多子宮に去りて鶴宮 天牛の穴の井あり 鶴宮の井あり

△多子宮より北に去りて今根と置るより東南に去りて今根の  
先ふつて今

先とす

△多子宮神社 多子宮寺より西に人高の寺村と云又塔の故と云高

寺神明と云也喜氏神名飯原町宮城郡田原今九月

神代巻五伊弉諾尊坐天根命何田宅敷日之少女云

○多子宮寺より西に去りて今根と置るより東南に去りて今根の  
先ふつて今

九年春壬申の神標

△五輪屋敷 多子宮城跡と云西北にありて今根の寺村と云

の寺此寺より西に去りて今根と置るより東南に去りて今根の  
先ふつて今

の寺此寺より西に去りて今根と置るより東南に去りて今根の  
先ふつて今

の寺此寺より西に去りて今根と置るより東南に去りて今根の  
先ふつて今

の寺此寺より西に去りて今根と置るより東南に去りて今根の  
先ふつて今

の寺此寺より西に去りて今根と置るより東南に去りて今根の  
先ふつて今

の寺此寺より西に去りて今根と置るより東南に去りて今根の  
先ふつて今

の寺此寺より西に去りて今根と置るより東南に去りて今根の  
先ふつて今

△春社明神社 市川村の寺村と云今根の寺村と云

西の寺三里半 説と云者此神社と神威 自ら此寺村

者備し此寺殿例今五月十日若別宮神名此寺村と云

此寺村と云











Handwritten text in a cursive script, likely a form of Chinese or Japanese calligraphy, arranged in vertical columns on the right page of the manuscript.









